

サマー ピラミッド

国語 小3

Summer Pyramid

インパラ Impala

回	単元名	ページ	学習日
1	走るんや！	2 ～ 5	月 日
2	自転車はみんな見ていた	6 ～ 9	月 日
3	ペンギンの体に、飛ぶしくみを見つけた！	10 ～ 13	月 日
4	唱歌／未確認飛行物体	14 ～ 17	月 日
5	ヨースケくん	18 ～ 21	月 日
	こぼれ遊び	22 ～ 23	月 日

もくじ



第1回 走るんや!

学習内容

・国語辞典の使い方
・漢字の画数・筆順
・物語文

学習日 / 月 日



会話の中にはかなづかいのまちがいそれぞれ一つあるよ。
まちがいの横に——線を引いて、左の□に正しいひらがなを書こう。

① おはよう。あら、かみの毛をみぢかく切ったのね。よくにあうわよ。

② ありがとう。気づいてくれたのは、あなただけよ。

③ こんにちはわ。これからサッカーのれんしゅう? 調子はどう?

④ 毎日がんばっているの、少しづつうまくなっているよ。来週しあいがあるから、おうえんしにきてね。

⑤ こんにちは。きれいなみかずきだね。

⑥ そうだね。それにしてもあついね。こうりをうかべたつめたい麦茶でもみたいよね。

①

②

③

④

⑤

⑥

1 (1) (3)の漢字は読みがなをひらがなで、(4) (6)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) 電車の発車時こくまでベンチにすわって待つ。

(2) ねぼうして、急いで学校へ行くじゅんびをする。

(3) このバスは、どの区間を利用してもしょうきんだ。

(4) すなはまで、きれいな貝がらをヒロウ。

(5) 大切にソダてたひまわりの花がさく。

(6) うれしいことがカサなった。

2 <国語辞典の使い方> 次のことを国語辞典にのっている順にならべ、記号で答えなさい。

(1) ア 高度 イ 子牛

ウ 工場 エ 行動

(2) ア コース イ こうのとりに

ウ 交通 エ コーヒー

3 <漢字の画数> 次の漢字は何画で書きますか。

漢数字で答えなさい。

(1) 家 画 (2) 麦 画

(3) 所 画 (4) 部 画

4 <漢字の筆順> 次の漢字の筆順として正しいものを一つえらび、記号で答えなさい。

(1) 生
 ア 一→二→三→四→五→六→七→八→九→十→十一→十二→十三→十四→十五→十六→十七→十八→十九→二十→二十一→二十二→二十三→二十四→二十五→二十六→二十七→二十八→二十九→三十→三十一→三十二→三十三→三十四→三十五→三十六→三十七→三十八→三十九→四十→四十一→四十二→四十三→四十四→四十五→四十六→四十七→四十八→四十九→五十→五十一→五十二→五十三→五十四→五十五→五十六→五十七→五十八→五十九→六十→六十一→六十二→六十三→六十四→六十五→六十六→六十七→六十八→六十九→七十→七十一→七十二→七十三→七十四→七十五→七十六→七十七→七十八→七十九→八十→八十一→八十二→八十三→八十四→八十五→八十六→八十七→八十八→八十九→九十→九十一→九十二→九十三→九十四→九十五→九十六→九十七→九十八→九十九→百
 イ ノ→ハ→ヘ→ニ→三→生
 ウ ハ→ル→下→牛→生

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

こわくて、つらい冬がすぎてやっとやってきた
去年の春。

まっくんと探検してぐうぜん見つけたとき、ぼくはものすごく感動した。

木は年をとっていた。幹には大きなうろがあいていた。まっくんとぼくが入れるくらいの大きな穴だった。根は地面にはいだして、今にもたおれそうになりながら、それでも、枝をひろげてたっていたんだ。あの、震度七の地震でもたおれないで。

「やっほー」

ぼくは、木にかけ上がってさげんだ。

「ぼくらの秘密基地や」

まっくんは、ジーパンのポケットからぐしゃぐしゃのハンカチをだして、枝にくくりつけた。

ぼくたちは、なんども作戦会議をして、木の基地を完成させたんだ。

枝と枝のあいだに、板をわたしてへやを作った。がれきの中からこわれたいすやテーブルを引きずってきて修理して応接室を作った。

それはそれはたいへんだった。いすやテーブルをつなでしぼって、まっくんがひっぱり上げる。なんどもとちゅうでつなが切れて落ちた。枝から落ちたりすりきずだらけになってやっとできたとき、ぼくたちは思わずバンザイをした。

うろにはちゃんと水を入れたペットボトルがある。かんづめも、かんパンもある。一週間ぐらい生きていける。

「たけしくんに見せたりたかったな」

まっくんがぼつんといった。

まっくんの親友のたけしくんは地震で家の下じきになって死んだ。つぶれたたけしくんの家の前から、まっくんはいつまでも動かなかった。楽しいときやうれしいとき、ごちそう食べたとき、まっくんは決まってたけしくんを思い出すんだ。

(岸川悦子『走るんや』新日本出版社)

*1 まっくんは「ぼく」の兄。

*2 うろはほらあな。中がからになっているところ。

*3 あの、震度七の地震は一九九五年冬に発生した阪神・淡路大震災のこと。

*4 見せたりたかったなは見せてあげたかったな。

問い1 線①「秘密基地」について、次の(1)～(3)に答えなさい。

(1) 秘密基地を作った木がどんな木かが書かれている段落のはじめの五字を書きぬきなさい。

□

(2) 秘密基地のへやをどのように作りましたか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

□

をわたして作った。

(3) 秘密基地に作ったへやを何とよんでいますか。文中から三字で書きぬきなさい。

□

問い2 線②「思わずバンザイをした」ときの

「ぼくたち」の気持ちとしてもっともよいものを次

のア～エからえらび、記号で答えなさい。

ア ほっとする気持ち。

イ こうかいする気持ち。

ウ うれしい気持ち。

エ びっくりする気持ち。

問い3 線③「まっくんがぼつんといった」とありますが、このときのまっくんの様子を説明したものと

記号で答えなさい。

ア しょんぼりしている。

イ どうどうとしている。

ウ いらいらしている。

エ こそこそしている。

問い4 線④「まっくんは決まってたけしくんを

思い出すんだ」とありますが、どんなときにたけしくんのことを思い出すのですか。もっともよいものを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。

ア 友だちが楽しい思いをしたとき。

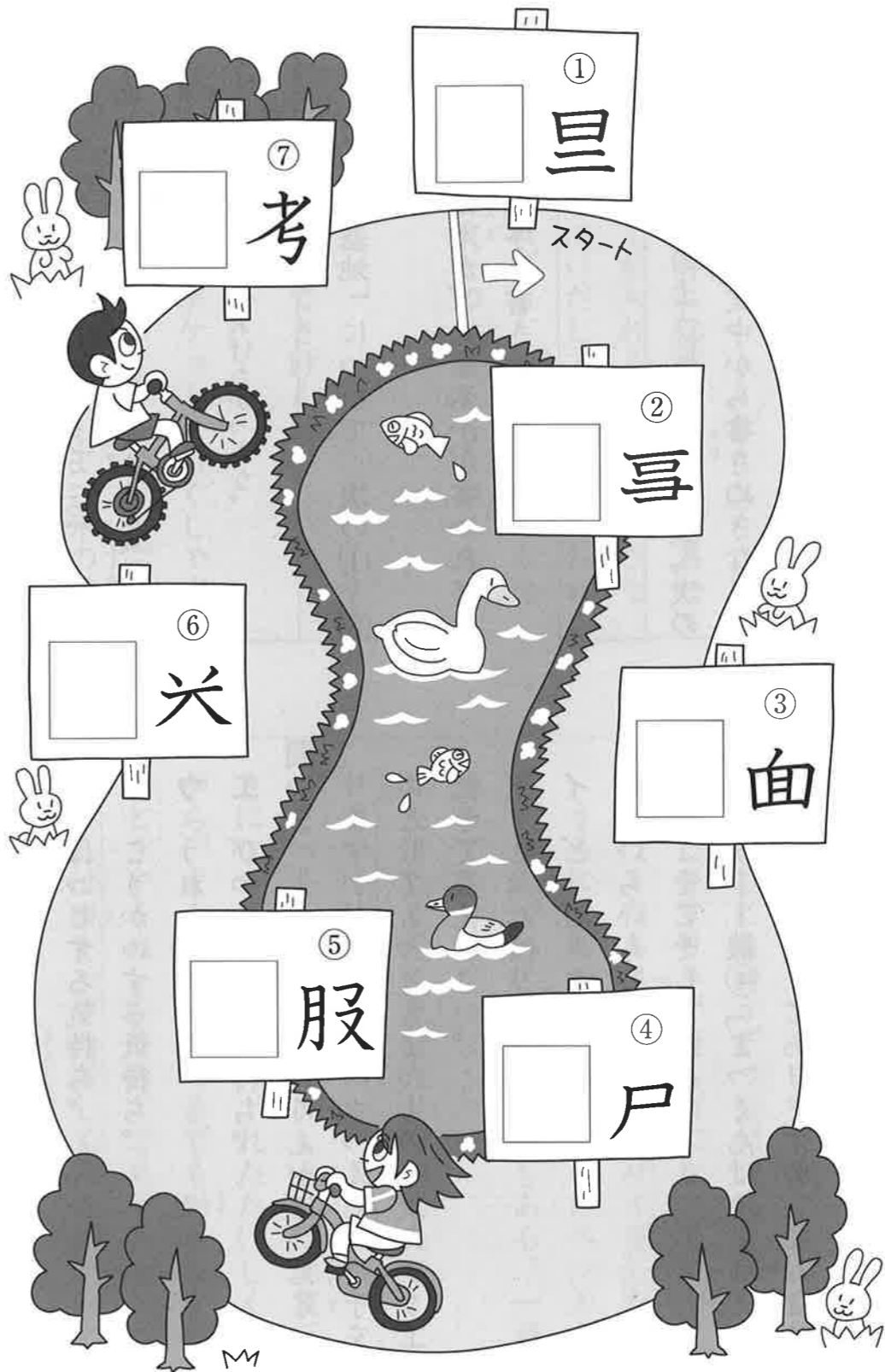
イ 自分がしあわせな思いをしたとき。

ウ 自分がつらい思いをしたとき。

エ 友だちがふゆかいな思いをしたとき。



立てふだの漢字から、ぼうが一本ずつなくなってしまったよ。
もとの漢字を□に書きながら、サイクリングコースを一しゅうしよう。



1 (1)~(3)の漢字は読みがなをひらがなで、(4)~(6)

のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) 図書館としよかんでおもしろそうな題名の本を借りる。

□

(2) ココアにお湯ゆを注いでよくかきまぜる。

□

(3) わくわくしながらプレゼントの箱はこを開ける。

□

(4) 午前中のうちにペンキペンキヨウをして、午後は遊あそぶ。

□

(5) 角かくでまちがったハウコウに曲まがり、道にまよう。

□

(6) わたしの姉はヨウキで明るいせいがかくだ。

□

2 <こそあど>とば 次の文の中から「こそあど

ことば」をさがし、その横よこに——線を引きなさい。

(一つとはかぎりません。)

(1) ここは何という名前の駅えきですか。

(2) 君きみの言うとおりに、それが問題もんだいなのです。

(3) 記念写真きねんしゃしんでわたしの横よこにいるこの人が姉です。

(4) あの話はどうなりましたか。

3 <こそあど>とば 次の□に入る「こそあど

ことば」をあの□の中なかからえらび、それぞれ書かきなさい。

(1) □ おいしいケーキははじめてです。

(2) □ 買ったのですか。

(3) わたしも □ でケーキを買いなさい。

そこ どのな どのな どのな どのな どのな

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ひろし！ 元気がないじゃないか。」
ベンチにもどってきたぼくに、かんとくの声が
とんできました。

今日は町内の子ども野球チームの、練習試合日
なのです。秋には町の体育祭で試合をするので、
夏休みの今、みんな練習しているのです。

そうです。かんとくの言うとおり、今日のぼく
は元気がありません。きのうのことを思い出すと、
くやしくて悲しくて、試合もうわのそらになっ
てしまっていた。

ぼくはきのう、自転車をぬすまれてしまったの
です。駅前のスーパーの前でした。かぎをかけな
かったのは、ぼくがいけなかったけれど、だから
といって、人の自転車に乗っていくなんて、もっ
といけないことです。

お父さんとお母さんは「さいなんだと思ってあ
きらめるしかないわね。」などと言いながらも、「な
れたのです。」

(内山登美子 『自転車はみんな見ていた』 ぎょうせい)

問い1 線① 「ひろし！ 元気がないじゃない
か」とありますが、(1)だれがそう言ったのですか。

また、(2)ひろしのどんな様子からそう思ったのです
か。次の□にあてはまることばを文中からそれぞ
れ書きぬきなさい。

(1) 野球チームの

□

(2) 試合中に

□
□
□
□
□
□
□
□
□
□

なっている様子。

問い2 線② 「きのうのことを思い出すと」とあ
りますが、きのうのどんなことがあったのですか。文
中から十三字で書きぬきなさい。

□
□
□
□
□
□
□
□
□
□

問い3 線③ 「ぼくだって反省している」とあり
ますが、ひろしの思ったこととしてもっともよいも

ぜ、かぎをかけなかったの。」と、いつまでも、
ぐじぐじともんくを言いました。ぼくだって反省
しているのに、あんまり言うのでないでしまいま
した。中学生のお兄ちゃんなんか、こう言ったの
です。

「そういうやつって、自分では悪いことしたと思
っていないんだよな。ちよつと借りてくつていう、
軽い気持ちで乗っていくんだ。」

そんなことが頭の中をちらちらして、試合に身
が入らなかつたのです。

試合が終わると、かんとくがぼくのひたいに手
をあてて、熱はないか、病気ではないかと心配し
てくれました。ぼくはなんだかむねがいっぱいに
なつて、自転車をぬすまれたことを話しました。
すると、かんとくは「よし、わかつた。」と言っ
て、ぼくの自転車をさがすように、チームのみんな
によびかけてくれました。止めてある自転車が
あったら、気をつけてよく見るようにと言つてく

のを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。

ア かぎをかけなかつた自分も、いけなかつた。

イ 人の自転車に乗っていく人なんているはずない。

ウ さいなんだと思つてあきらめよう。

エ 自分は悪いことはしていない。

問い4 線④ 「ぼくはなんだかむねがいっぱいに
なつて」とありますが、このときのひろしの気持ち
を説明した次の()にあてはまることばをあとの
ア～エからえらび、記号で答えなさい。

かんとくの(あ) 気づかいが(い)。

ア うれしい イ たのしい

ウ はずかしい エ やさしい

□^あ

□^い

問い5 線⑤ 「よし、わかつた」とありますが、
かんとくは何がわかつたのですか。もっともよいも
のを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。

ア ひろしがきのうないたこと。

イ ひろしのむねがいっぱいになった理由。

ウ ひろしが元気がない理由。

エ ひろしが病気ではないこと。

□

第3回 ペンギンの体に、飛ぶしくみを見つけた!

学習内容

つなぎことば 文のほね組み
説明文

学習日 / 月 日



暗号の手紙が三通とどいたよ。手紙の中にそれぞれ一つずつ生き物の名前がかくれているよ。さがしてみよう。

①

ま	く	ろ	し
わ	る	う	ば
っ	く	か	ら
た	る	を	く

②

キ	ス	ワ	コ	ア
ネ	テ	ラ	レ	ス
ン	キ	ッ	デ	モ
シ	ナ	テ	サ	ト
ヤ	エ	ス	ン	ロ
シ	ガ	ワ	ド	ウ
ン	オ	レ	メ	カ

③

の	ぎ	に	き	き	き
ん	ゆ	っ	よ	よ	ゆ
で	う	こ	う	う	う
わ	に	り	も	し	し
ら	ゆ	し	ま	つ	よ
う	う	て	た	で	く

1 (1)~(3)の漢字は読みがなをひらがなで、(4)~(6)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) おふろのそうじが、わが家でのぼくの仕事だ。

(2) 動物園へ行って、ライオンやキリンを見る。

(3) 今度の日曜日には、家族で海へ行く予定だ。

(4) クラスゼンインで近くの川原でキャンプをする。

(5) ミドリ色のユニフォームを着て、試合に出る。

(6) 夏休みがハジまって、一週間がすぎた。

2 <つなぎことば> 次の□にあてはまることば

をあとの□の中からえらび、それぞれ書きなさい。

(1) 手紙をもらった。

、なかなか返事を書かなかった。

(2) 手紙をもらった。

、すぐに返事を書いた。

だから または つまり しかし

3 <主語・述語> 次の文の主語と述語をア〜エか

らえらび、それぞれ記号で答えなさい。

(1) ^アあれが ^イぼくの ^ウ通う ^エ学校です。

(2) ^アわたしは ^イおつかいの ^ウ帰り道に ^エころんだ。

(3) ^ア田中さんの ^イノートは ^ウいつも ^エきれいだ。

主語

述語

主語

述語

主語

述語

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

まず、ペンギンとはどんな生きものなのか、調べてみよう。
 ペンギンは、大きく六つのグループに分けられる。そして、ペンギンのすんでいる所は、南半球だけ。日本のある北半球にはいない。ただし、フンボルトペンギンのグループに入っているガラパゴスペンギンだけは、北半球にほんの少しはみ出した、ガラパゴスの島じまでくらししている。
 ペンギンと聞いて、多くの人か思いうかべるのが、アデリーペンギンだ。かれらに、ペンギンの代表になってもらおう。
 さて、泳ぐすがたを見てみると、体のまん中がいちばん太く、くちばし、尾羽へ向かって細くなっている。これは、泳ぐのにぴったりで、魚も同じ形をしているものが多い。体の表面を水がなめらかに流れていく流線形で、ほかのグループのペンギンもだいたい同じ形だ。

だから、昔の人は、ペンギンを のなかま とまちがえたこともあったらしい。

ペンギンは、鳥なので、たまごでうまれる。アデリーペンギンのたまごは、ニワトリのたまごより少し大きいぐらいだ。親は、たまごを足の間にはさんであたため、ひなをかえす。
 アデリーペンギンは、なかまが集まり、そこでたまごをうみ、子育てをする。
 たまごは、おすとめすが交代であたためるが、どちらかといえば、おすがたまごをだいている時間の方が長い。
 やがてひながかえると、ひなだけが集まってすごすようになる。この集まりを、クレイシと動物学者はよぶ。クレイシとは、ほいく所の意味だ。なぜクレイシをつくるのかは、トウゾクカモメなどから身を守るためと考えられているけれど、くわしくはわかっていない。
 (山本省三『ペンギンの体に、飛ぶしくみを見つけた!』くもん出版)

問い1 線①「ペンギン」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 大きく分けると、いくつのグループに分けられますか。

□

- (2) どこにすんでいますか。文中から三字で書きぬきなさい。

□

問い2 線②「体のまん中がいちばん太く、くちばし、尾羽へ向かって細くなっている」とありますが、このような形を何といいますか。文中から三字で書きぬきなさい。

□

問い3 □にあてはまることばとしてつともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

- ア 鳥
- イ 生きもの
- ウ 魚
- エ ニワトリ

□

問い4 線③「ペンギンは……うまれる」とありますが、ペンギンのたまごについてのべた次の(1)・(5)が、この文章に書かれていることと合っていれば○、まちがっていれば×を書きなさい。

□

- (1) アデリーペンギンのたまごは、ニワトリのたまごより少し小さい。

□

- (2) ペンギンの親は、たまごを足の間にはさんであたためる。

□

- (3) アデリーペンギンは、なかまが集まってたまごをうむ。

□

- (4) いつもおすとめすがいっしょにたまごをあたためる。

□

- (5) めすよりおすの方がたまごをだいている時間が長い。

□

問い5 線④「ひなだけが集まってすごすようになる」とありますが、何のために集まるのだと考えられていますか。文中から十七字でさがし、そのはじめと終わりの三字を書きなさい。

□

第5回 ヨースケくん

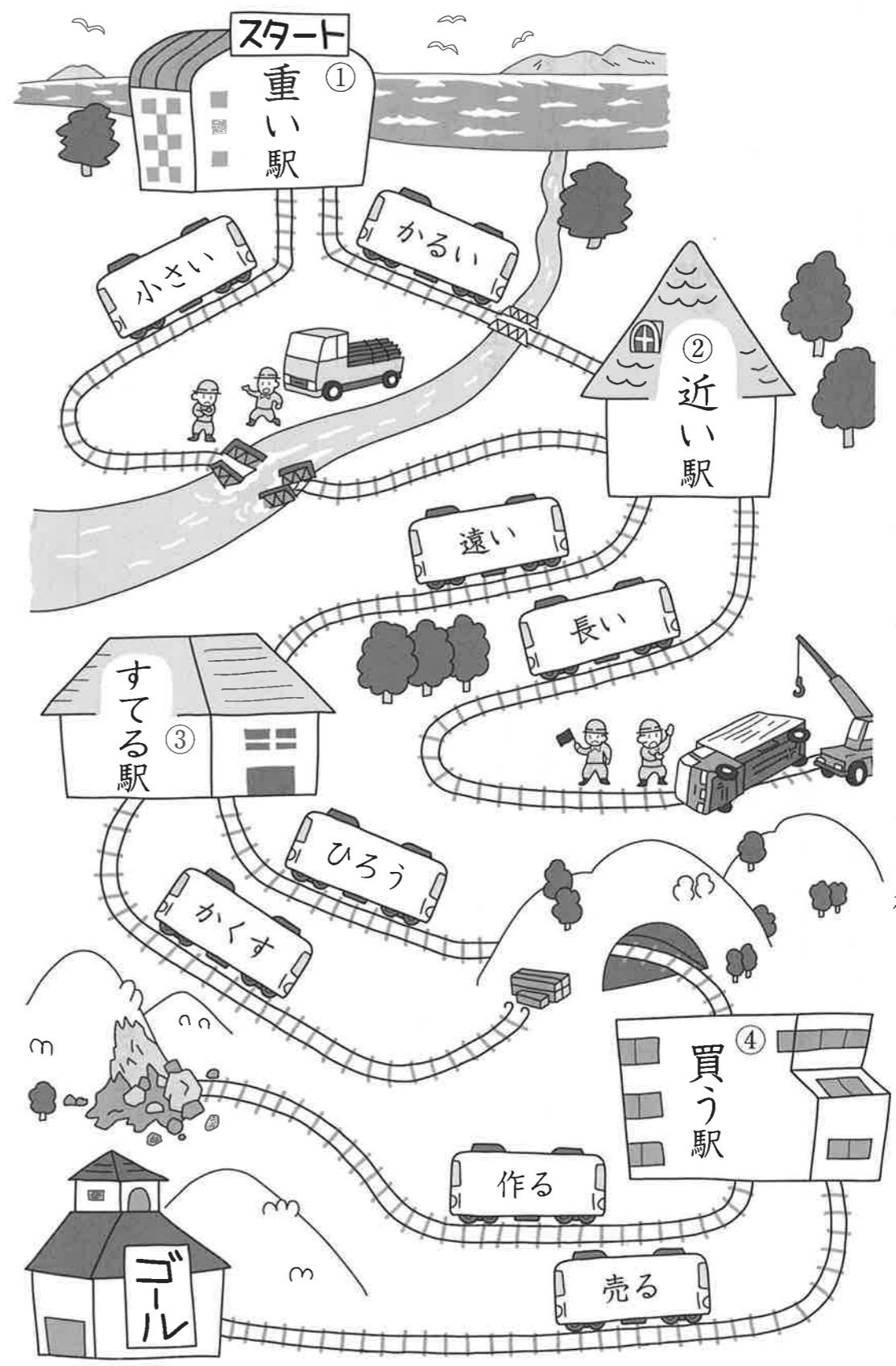
学習内容

くわしくすることば
物語文

学習日 / 月 日



駅名のことばと反対の意味のことばの電車に乗って、ゴールまで行こう。



1 (1)~(3)の漢字は読みがなをひらがなで、(4)~(6)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

- (1) 運動場で友だちときょう走をする。
- (2) わすれ物がなにか、持ち物をかくにんする。
- (3) 物語の主人公は、さい後には幸せになった。
- (4) 夜ふかしは体にワルいので早くねる。
- (5) 転校した友だちからの手紙にヘンジを出す。
- (6) 試合で、チヨウシよくシユートが決まった。

2 くわしくすることば 次(つぎ)の文の~~~~線の主語をくわしくしていることばの横に——線を引きなさい。

- (1) 大きな 音が した。
- (2) この ぼうしは、ぼくの ものだ。
- (3) 空に 美しい にじが かかる。
- (4) 来年、わたしの 兄は けっこんする。

3 くわしくすることば 次(つぎ)の文の——線の述語(しよご)をくわしくしていることばを(れい)にならって書きぬきなさい。(一つとはかぎりません。)

- (1) 雨が はげしく ふる。
(↓答え ねっしんに・本を)
- (2) となりの 犬は、いつも 大声で ほえる。
- (3) 今日 ぼくたちは ドッジボールを した。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

水面をじっと見てみると、ヨースケくんの立っている川岸のほうかわぎしが、上流じょうりゅうにうごいているような気がしてきた。そんなばかなことはない、これは錯覚さつかくなんだとわかっていても、足もとの川岸がぐんぐん川上に進みはじめ、ヨースケくんはあわてて両足をふんばった。

「すごいなあ」

ヨースケくんは、思わず声にだしてつぶやいていた。川岸は、かなりのスピードでうごいていく。むろん、ヨースケくんも川岸といっしょに川上におかたて進んでいるのだ。このまま川岸が学校のそばまで移動いどうしてくれば、らくちんだなあ。そんなことを考えながら、ひよいと顔をあげて対岸の家をながめると、いまのいままですばらしいスピードでうごいていたからだ、止まってしまった。でも、視線を川面にうつすと、すぐに自分のほうがうごきはじめる。

ここまで歩いていっておまえをよぶまで、ずーっと、あそこにつっ立ってたんだもんなあ」
なるほど、そういえばずいぶん長いあいだ、川をながめていたような気もしてきた。
(那須正幹「ヨースケくん—小学生はいかに生きるべきか」ポプラ社)

問い1 線①「これは錯覚なんだ」とありますが、

これを説明した次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

ほんとうは川が下流にむかってながれているのに、

をじっと見ていると、自分の足もとの

のほう为上流にむかって

いくように思える。

問い2 □にあてはまることばとしてのもつともよいものを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。

- ア がたとと イ ぐらりと
- ウ ぴたりと エ さつと

「おーい、奥谷、遅刻するぞ」

うしろで声がした。ふりかえると道路の上からクラスメートの倉橋勝次くんが、手をふっていた。そうだ、いまは学校にいくとちゅうだったんだ。ヨースケくんは、あわてて川岸からはなれると倉橋くんを追いかけることにした。

「カツちゃん、すごいよ。川の水が、すつごくふえてさあ。どんどんながれてるんだから」

倉橋くんと肩をならべると、ヨースケくんは八幡川の状況を報告した。

「おまえも、ひまなんだなあ。ずうっと川を見てたろう。おれ、アパートの窓からおまえのこと、見てたんだからな」

倉橋くんが、ちらりとうしろをふりかえった。倉橋くんの家は、八幡川の近くにたっているアパートの三階だ。

「そんなに、長いこと見てたかなあ」
「見たた、見たた。おれが牛乳飲んで、便所にいて、靴はいて、アパートをでて、それで、あそ

問い3 線②「八幡川の状況を報告した」ときの

ヨースケくんの気持ちとしてのもつともよいものを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。

- ア 川のいきおいのすごさやおもしろさを教えたい。
- イ 川が増水していてあぶないことを知らせたい。
- ウ 川の水がどんどんながれていく理由を知りたい。
- エ 川岸が川上にうごいていく原因を教えたい。

問い4 線③「なるほど、……気もしてきた」に

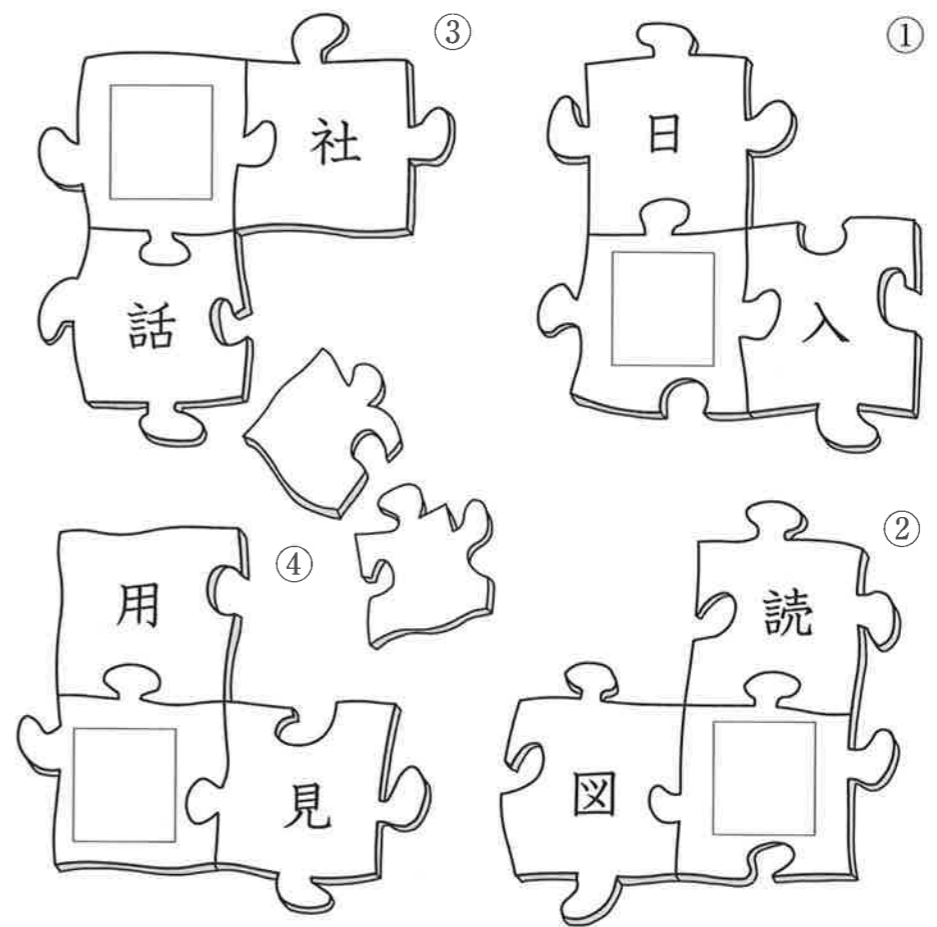
ついて、次の(1)・(2)に答えなさい。
(1) ヨースケくんが川をながめていた時間の長さがくわしくわかる一文のはじめの五字を書きぬきなさい。

(2) 線③からヨースケくんのどんなことがわかりますか。もつともよいものを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。

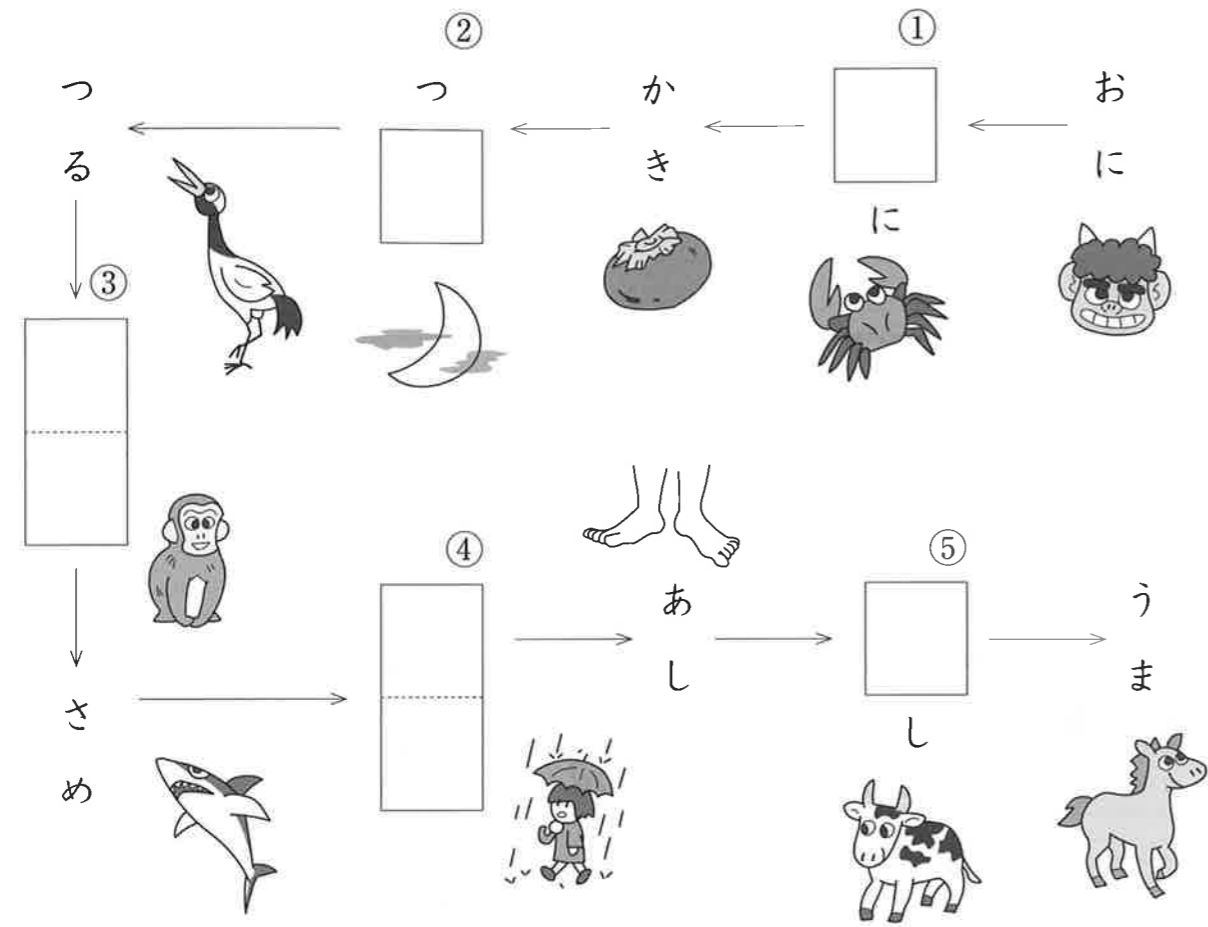
- ア ぼんやりと川の様子をみていたこと。
- イ おちゆうで川の様子をみていたこと。
- ウ こっそり川の様子をみていたこと。
- エ 堂々と川の様子をみていたこと。

1 ことば遊び

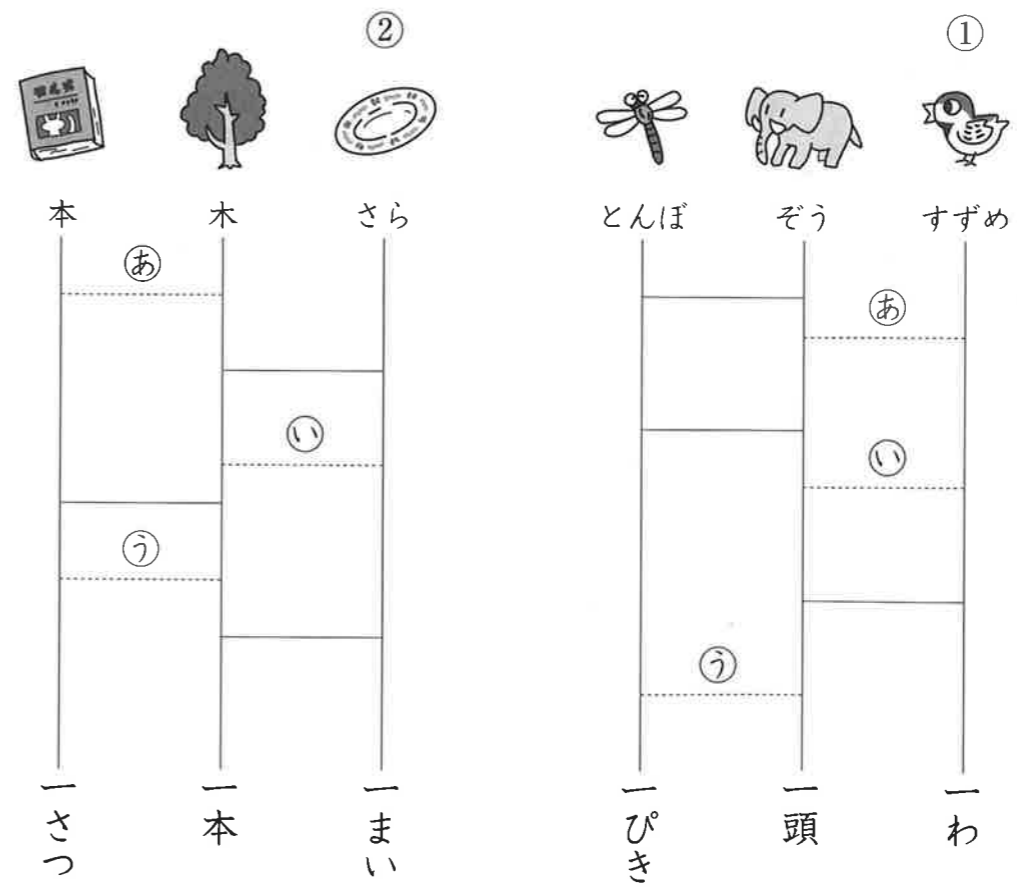
1 上から下、左から右のどちらの読み方でもじゆく語になるように、□に合う漢字をあとの□からえらんで書こう。



3 上か下の一字だけかえて、べつのことばにしよう。



2 上の生き物や物に合う数え方につながるようにするには、どこに線を一本ふやせばいいかな？ ㊦から㊧から一つえらんで...をなぞろう。



4 ことばの中に□の数だけ文字を入れて、べつのことばにしよう。

